
BPSD の治療法の進歩と臨床応用

Progress in the Treatment and Clinical Strategy for BPSD

島根大学医学部精神医学講座／教授

堀口 淳*

精神疾患を有する患者の多くは内科や婦人科など様々な臨床各科を受診する。

いきなり精神科を受診する患者は少ない。本講演では、最近のBPSDの治療法の進歩と臨床応用について、特に抑肝散の治療効果についての我々の研究成果などを取り上げて講演した。抑肝散がBPSD以外にも、統合失調症や境界性人格障害あるいはジスキネジアなどに対して治療効果を有することについても報告した。

また、不眠やせん妄、認知症など、各科を受診する頻度が高い症候を取り上げ、それらの診断や知っておくと便利な薬物療法のコツなどについても、ビデオ映像などを用いて概説した。

この論文は、平成21年4月18日(土)第17回中・四国老年期認知症研究会及び、平成21年7月25日(土)第23回老年期認知症研究会(中央)で発表された内容です。

抑肝散の投与方法

1. 標的症状(せん妄、興奮など)への単剤療法
Rp. ①抑肝散 3包
3×食前ないし食間
2. 通常の薬物治療との併用療法
ex. 統合失調症、ジスキネジアなど
Rp. ①通常の薬物治療
②抑肝散 3包
3×食前ないし食間

抑肝散の投与方法

1. BPSDのみられない認知症に対する予防投与
Rp. ①抑肝散 3包
3×食前ないし食間
2. 不眠症患者全般
Rp. ①抑肝散 1～2包
1×眠前
あるいは抑肝散 3包
3×食前ないし食間

抑肝散の臨床応用

衝動性のコントロールに応用できないものか？
小児・児童期の精神疾患
行為障害 多動性障害
チックなど
摂食障害？
その他の様々な衝動抑制の障害？
抜毛症、性的異常
病的賭博など

* Jun Horiguchi: Professor, Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University